



中日杯2023東海オープンボウリングトーナメント

7月21~23日 / 星が丘ボウル

水野耕佑が快勝で通算3勝目 大根谷愛は5年ぶりの4勝目



▶ともに大会初優勝だった大根谷(左)と水野

1970年に第1回が開催され、以来半世紀以上の歴史を刻んできた東海オープンが、今年も愛知・名古屋市の星が丘ボウルを会場に、男子プロ170名、アマ90名、女子プロ100名、アマ30名が参加して頂点を目指したが、男子是水野耕佑(56期、岩屋キャノンボウル)が、また女子は大根谷愛(45期、E-BOWLトマト西宮)がそれぞれ大会初優勝を飾った。またベストアマは、男子は森裕雅選手(A.C.グランド)、女子は岩元美咲希選手(名古屋グランドボウル)が獲得した。(主催：中日新聞社/東海ボウリング場協会/日本プロボウリング協会東海地区)

男子・レフティー優勢?

準決勝までの14Gトータル上位12名が決勝グループラウンドロビンに進出、グループラウンドロビンは3グループに分かれ総当たり3G及びポジションマッチ1Gを投球、各グループの1位と、2位で最もポイント上位の1名の、計4名を決勝

シュートアウトへ選出する。第Iグループを江川司、第IIグループを水野、第IIIグループを山本勲が1位で勝ち抜け、ポジションマッチで289を叩いた齊藤祐哉が、安里秀策を1ポイント抑えて4番目の座に滑り込んだ。

シュートアウト・セミファイナルは、ただひとり右投げの水野が、6フレからのオールウェーで首位通過を果たせば、左レーンを攻略できずダッチマンスタイルの山本が、9フレ気合のストライクで齊藤を2ピン

差退けた。優勝決定戦はストライクの応酬で幕を開けたが、山本がフォースで先に切れたのに対し、水野は6フレまで伸ばしてリードを奪う。「タラレバだけど、7フレでボールを替えるべきだった」と振り返った山本は、8フレからのダブルで食い下がったが、水野が244:237と7ピン差しのぎ切って、通算3勝目を挙げた。

女子・10フレにドラマ

各グループともポジションマッチで決着する大接戦だったが、第Iグループから寺下智香、第IIグループから大根谷、第IIIグループから坂本かやが1位で抜け、第IIIグループで坂本と競り合った大嶋が4番目の座を確保した。

決勝シュートアウト・セミファイナルは、2フレからターキー、6フレからオールウェーの坂本が269で1位。2フレ⑩スプリットでつまずいた大根谷は、3フレから7連発を決めて244の2位で勝ち上がった。



▶トップシードで敗れた六甲のリベンジを果たし5年ぶり4勝目の大根谷



▲「六甲の予選落ちがショックで猛練習をした」と坂本、昨年に続く連覇こそ逃したが、早速結果を出した

優勝決定戦は、大根谷が1フレからフィフスでリードを奪うが、6フレは⑩ピンを残して切れると、これを手痛いカバーミス。すかさず坂本は5フレからストライクでたたみかけて逆転。9フレまでの5連発で勝負あったかと思われたが、10フレ1投目は「しっかり投げたつ

もりだったけど、外にふれてしまった」と、④⑩を残すスプリット。カバーもならず235でフィニッシュ。「ノーチャンスと思っていたのが、思わず計算しちゃいました」と大根谷。見事なパンチアウトを決めて246で、2018年のROUND1 JPB決勝大会以来5年ぶりの4勝目を挙げた。



▲「とりあえずは10勝を目標に、コツコツと積み重ねていきたい」と水野



▲準優勝にも「予選のスタートを考えれば、ここまでもってこれたのはちょっとうれしかった」と山本

今月の表紙

男子優勝・水野耕佑

シュートアウトに残ったのが右は一人だったので、ストライクアングルさえつかんでしまえばいけるなという思いはありました。レーンの的にも、しっかり転がしていけばポケットはつかるなど。優勝決定戦は、相手が(山本)勲プロだから、ストライクを絶対つなげてくるだろうなと思った。とにかく置いていかれないようにして、勲プロが切れたときに自分が持ってこられれば…と、それだけ考えていた。

3勝目だけど、A公認トーナメントは初めてだったので、

やっぱり違う重みを感じるし、自信になる。また所属が変わって1年ちょっとになるけど、岩屋キャノンボウルの水野として優勝してくれと言われていたし、支配人、副支配人が来てくれる目の前で優勝できたのが本当にうれしい。

優勝ボール: ザ・ワン ウルトラマリン(EBONITE)

女子優勝・大根谷愛

3勝目を挙げたあと、この前の六甲を含めて2位が5回ぐらいあって、嫌な記憶ってすごく残るので、ああまた負けちゃうのかな、みたいな考えがよぎりました。優勝決定戦も6フレ⑩ピンをミスって、すかさずスト

ライクを続ける(坂本)かやちゃんをさすがだなと見ていました。ところがかやちゃんが10フレ割れて、もしかしたらと、点数を計算しちゃいました。

(7月末時点ポイントランキングでトップ)何かフォームを変えたとか、ドリルを変えたとかもないんです。変わったといえば母親になったぐらい。こんなに成績が出ているのが信じられない。E-BOWLトマト西宮でお世話になっている村田和子プロ、北野周一プロの前でやっと勝つことができました。いつも来てくれて「ハイ残念でした」という感じだったので。

優勝ボール: ナノデス・アキュドライブ ツー(ABS)

男子決勝シュートアウト

江川 司	197										
水野 耕佑	244										
山本 勲	219										
齊藤 祐哉	217										

決勝: 水野 耕佑 (244) vs 山本 勲 (237)

男子優勝決定戦

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
水野 耕佑	30	60	90	120	149	169	188	208	228	244
山本 勲	30	60	89	109	129	149	169	198	218	237

女子決勝シュートアウト

寺下 智香	205										
大根谷 愛	244										
坂本 かや	269										
大嶋 有香	193										

決勝: 大根谷 愛 (246) vs 坂本 かや (235)

女子優勝決定戦

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
坂本 かや	20	49	69	89	119	149	179	207	226	235
大根谷 愛	30	60	90	119	138	147	166	186	216	246